

臓器移植推進 協会だより

第32号

(発行者)

公益財団法人栃木県臓器移植推進協会
理事長 稲野秀孝

(編集責任者)

企画委員長 村山直樹

(事務局)

宇都宮市昭和1丁目3番10号
栃木県庁舎西別館4階
TEL 028-625-7350
FAX 028-625-7362

『巻頭言』



公益財団法人栃木県臓器移植推進協会 理事長 稲野秀孝

臓器移植推進協会だより第32号（令和3年度版）の発刊にあたり、一言御挨拶を申し上げます。

関係者の皆様には日頃より当協会の事業運営に関しまして、格段の御指導御鞭撻を賜り厚く御礼を申し上げます。

さて、平成22年7月の「改正臓器移植法」の全面施行後、これまでに全国では、803例（令和3年12月末現在）の脳死下での臓器提供例が報告され、本県においても15件の脳死下での臓器提供と、3件の心停止後の提供があるなど、徐々にではありますが移植医療が着実に推進されつつあると考えております。

一方で、県内の腎臓移植希望者は昨年12月末現在で217名、他にも心臓、肺、肝臓、膵臓及び小腸など、依然として多くの方々が臓器移植を待ち望んでいる状況にあり、今後とも、県民への臓器移植の理解を深める普及啓発活動をより一層充実させる必要があると考えているところです。

当協会では、毎年10月の臓器移植普及推進月間に県、医療機関、患者団体、ライオンズクラブなどのご協力をいただき、街頭キャンペーンを開催しておりますが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、県央・県南地区において、県及び事務局のみで実施するなど、例

年に比べ、活動内容が制限されてしまいました。

しかし、マスメディアを利用した啓発活動や、臓器移植推進月間をPRするための懸垂幕の掲示、宇都宮タワーのライトアップ及びプロスポーツチームとのオリジナリティ豊かな共同企画を実施するなど、県民各層の皆様にも、臓器移植に関する理解を深めていただくため、できる限りの事業を積極的に展開したところです。

また、小・中学生や高校生などに移植医療を通じて命の尊さを学んでいただくために実施している「命の学習会」事業につきましても、感染症拡大防止に留意して1学校で開催しました。今後、一日も早い終息を待ちながら普及啓発活動が再開できるよう願っています。

当協会は、公益財団法人に移行して10年目を迎え、今後とも臓器移植の普及啓発活動の充実や、移植医療を円滑に実施するための事業を幅広く実施し、より公益性の高い法人として発展して参る所存であります。

結びに、医療機関をはじめとする関係機関、団体の皆様はもとより、県民の皆様には臓器移植の推進に向けて、更なる御理解と御支援を賜りますようお願いを申し上げます。

専門委員会だより

臓器移植推進会議（企画委員会）活動

委員長 村山 直樹（協会理事）

本会議は、臓器移植推進事業の一層の充実を図ることを目的に、平成27年度から従来の企画委員会を「栃木県臓器移植推進会議」として拡充し、今年度で第7回目の会議を開催いたしました。

今回は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面による会議といたしました。栃木県臓器移植推進事業の現況や今後の取組について、各委員に提示させていただき、令和3年度事業の実施状況や令和4年度の事業計画案について承認いただいたところです。

令和3年度の意思表示カード普及啓発事業において、県、県透析医会、腎友会及びライオンズクラブ等に御協力をいただいで毎年実施している「街頭キャンペーン」が、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、県央（宇都宮市）・県南（佐野市）の2地区だけで県と事務局のみで小規模に開催したほか、宇都宮タワーをグリーン色でライトアップする事業については、タワーの耐震工事が終了したので今年度は実施することができました。

また、臓器移植への理解を深めるため、命の大切さについて小・中・高校生を対象とした講座「命の学習会」についても、新型コロナウイルス感染拡大防止に留意して、1学校で実施できました。

人気プロスポーツチーム「宇都宮ブレックス」との共同企画事業である、有名選手等を「栃木県臓器移植推進サポーター」に任命し、普及啓発活動の一役を担っていただくこと、更に12～2月に開催された試合の会場において、オリジナル意思表示カードを入場観戦者に配布する事業については実施することができました。

コーディネート活動奨励事業では、院内移植

コーディネーターの皆さんに対し、円滑な情報連絡・相談体制等を構築するための研修を年に3回実施していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、研修会は中止し、参考書籍の送付のみといたしました。

そのほか、支援型飲料自動販売機設置事業については、現在7台が稼働しています。

次に、令和4年度の事業計画については、感染症の動向によりますが、「臓器移植普及推進街頭キャンペーン」や「命の学習会」など、従来からの普及啓発事業の着実な実施、また、プロスポーツチームとの共同企画の継続実施や、日本臓器移植ネットワーク、栃木県等との連携を強化し、各般の事業を幅広く実施するとともに、支援型飲料自動販売機の設置促進を図ること、マスメディアの効果的な活用などについて提案し、承認されました。

透析委員会活動

委員長 齋藤 修

透析委員会では、県内の透析医療機関の協力を得て、毎年12月末日時点での「人工透析医療実態調査」と、新たに透析療法を導入された患者さんの状況について、患者匿名により医療機関から報告していただく「透析導入調査」を行っています。

両調査の結果につきましては、それぞれ分析の上統計処理したものを公表し、行政の腎不全対策や、透析医療の質の向上に役立たせていただいております。

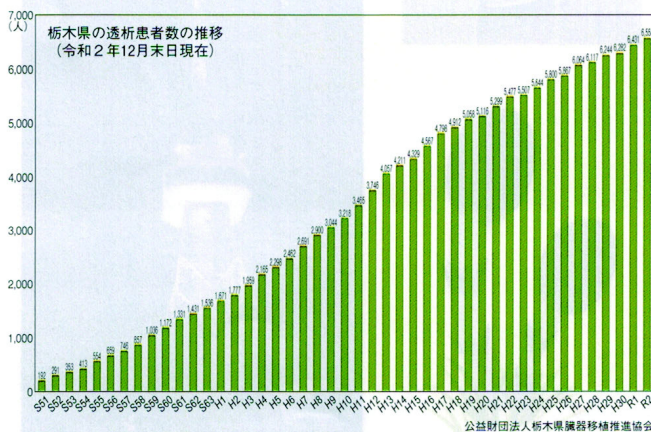
今年度の委員会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面による開催とし、令和2年分の調査結果の分析と、令和3年分の調査実施計画の策定を行いました。

令和2年分の調査結果につきましては、その一部（透析医療機関と透析患者の動向、腎臓移

植の現況等)を本紙に別掲しておりますが、全透析患者数は令和元年より127人増加し6,558人、平均年齢は68.2歳でした。急激な増加の時代は終わり、なだらかな増加傾向が続いています。原疾患別では、糖尿病性腎症が45.6%、慢性糸球体腎炎(ネフローゼを含む)が27.8%と多くを占めています。また、1年間の透析導入患者数は820人、平均年齢は69.65歳でした。

各透析医療機関におかれましては、実態調査の趣旨を御理解いただき、記入上の注意等を確認の上、記入もれや誤記入のないよう、御協力をお願いしたいと思います。

今後とも、透析委員会の活動に御理解と御協力をお願いします。



できごと

臓器移植普及推進月間における「街頭キャンペーン」

当協会の普及啓発活動の主な事業の一つであります「街頭キャンペーン」は、栃木県、透析医療機関、栃木県腎友会、ライオンズクラブ等関係団体の協力をいただき、10月の臓器移植普及推進月間に合わせて、県内3か所で実施していました。

しかし、今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、県央地区及び県南地区だけで、県及び事務局のみの体制で小規模に開催しました。

【県央地区】宇都宮市・オリオン通りイベント広場

10月3日(日)天候にも恵まれ、昨年に引き続き「オリオン通りイベント広場」で開催しました。

県から2名、事務局2名の4人体制で、消毒を万全に行いながらできるだけ人との接触を避けて本県オリジナルの「臓器提供意思表示カード付きリーフレット」に啓発グッズ(エコバッグ)をセットにしたものを配布しました。また、同様の理由から毎年実施しているアンケート調査も今年度は中止としました。

感染防止に努めながら、500セットを配布しました。



【県南地区】佐野市・イオンモール佐野新都市店

10月16日(土)、屋内スペースをお借りしてキャンペーンを実施しました。県から1名、事務局2名の3人体制で、県央地区同様に消毒を万全に行いながらできるだけ人との接触を避けて「臓器提供意思表示カード付きリーフレット」と啓発グッズ(エコバッグ)のセットを配布しました。

感染防止に注意しながら、300セットを配布しました。



宇都宮ブルックス・ホームゲームにおけるキャンペーン開催

宇都宮ブルックスにおかれましては、普及啓発ポスター及び意思表示カード付きリーフレット作成など数多の御協力をいただいております。

令和3年12月26日（日）に県総合運動公園内の日環アリーナ栃木、令和4年2月13日（土）には県運転免許センター向かいのTKCいちごアリーナ（総合体育館）で開催されたホームゲームにおいてキャンペーンを実施しました。

意思表示カード付きリーフレットを入場者全員に配布したほか、ポケットティッシュを当協会ブースで配布し、普及啓発を行いました。

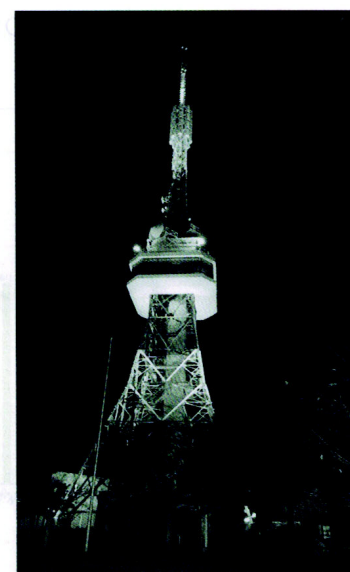


「県庁施設への懸垂幕の掲示」 「とちまるくん人形への飾りつけ」

昨年度に引き続き10月の臓器移植普及推進月間に合わせて、県庁北別館に「10月は臓器移植普及推進月間です」と書かれた懸垂幕を掲示し、来庁者や通行する方々への周知活動を行いました。

また、県庁正面玄関のとちまるくん人形に推進月間を知らせる飾りつけを実施し、来庁した方々への周知をいたしました。

宇都宮タワーのライトアップについては、タワーの耐震工事が終了したので、今年度は実施することができました。



命の学習会（令和3年度）

命の学習会講師派遣事業は、小学校・中学校・高等学校などの児童・生徒に臓器移植医療を通じて、命の尊さや大切さを理解してもらうため、平成20年度から実施しております。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で実施できませんでしたが、今年度は希望のありました県立宇都宮東高等学校附属中学校で6月17日（木）に実施しました。

○県立宇都宮東高等学校附属中学校(3年生105名)

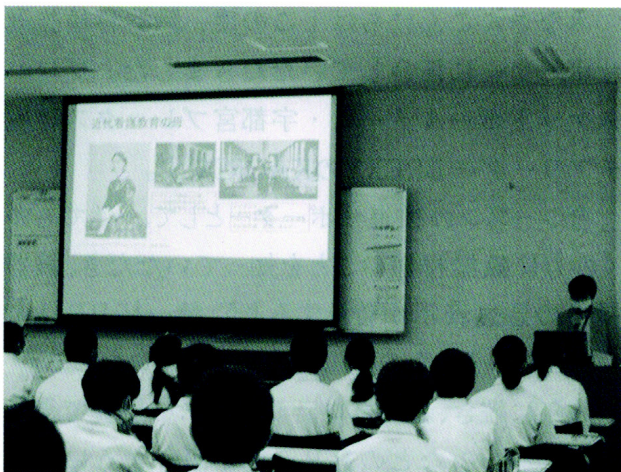
日本の臓器移植の概要について学んだ後に、県内の大学病院で小児臓器移植を専門とするレシピエントコーディネーターの方から「肝臓移

植の現状について」講話がありました。

移植を必要とする患者さんの実際や、コロナ禍での厳しい制限のある入院生活やご家族の様子について知ることができました。

また、看護を行う上で大切とされている「心」「技術」「知識」は、看護だけではなく、人間として命と向き合う上で大切なことではないかと問いかけました。

終了後のアンケートでは「臓器提供をうけた患者さんの回復した様子を見て嬉しく思った」「今は臓器移植をする勇氣はないが、納得のいく選択をするためには『知ること』が大切だと思った」「将来、小児科の看護師になりたいので貴重な体験ができた」などの意見がありました。



臓器移植推進サポーター任命式

オリジナル臓器提供意思表示カードの作成・配布や普及啓発ポスターの作成・掲示などで多岐にわたり協力をいただいている『宇都宮ブレックス』との共同企画の一環として、今年度も、ブレックスの有名選手と専属チアリーダーに「栃木県臓器移植推進サポーター」として、幅広く広報普及活動を行っていただいています。

当協会では、去る9月16日（木）に、栃木県医師会において、今年度の「栃木県臓器移植推進サポーター任命式」を行いました。

新たにサポーターに任命したのは、2020年に入団してから大活躍しているテーブス海選手と専属チアリーダー「BREXY」のKAO

RIさんの2名で、当日は、テーブス海選手とKAO RIさんに当協会の稲野秀孝理事長から任命書と臓器移植のシンボルであるグリーンリボンバッジが手渡されました。

テーブス海選手は、「臓器移植がより多く行われるよう、全力で広報活動のお手伝いをさせていただきます。」と抱負が述べられました。

このサポーター任命式や街頭キャンペーンでの普及啓発活動の様子は、TV・ラジオ・新聞等多くのマスメディアで報道され、臓器移植推進に関して、多くのPR効果を生み出しました。



関係団体報告

栃木県腎友会の活動について

栃木県腎友会 会長 長山八洲稔

栃木県腎友会（正式名称：栃木県腎臓病患者友の会）は、県内の透析施設に通院する方の患者会です。腎臓に障害を持つという理由で、社会的な差別や不利益を受けることなく、一人の国民として医療を享受し存命できるように、昭和49年に栃木県腎友会を結成しました。本会会員は、友愛と互助の精神で一致団結し、会の活動に取り組んでいます。

ここで令和3年度の活動実績を報告させていただきます。

・会員の命を守るために

誰もが等しく透析医療を受けられる現行制度を維持し、高齢化が進む透析患者の介護制度を新たに確立するよう、今年度も国会請願活動と県保健福祉部に対する要望活動を実施いたしました。

・健康的な透析ライフを送るために

健康的な透析ライフを送るには、自分の病気を理解し、自己管理の能力向上を図る必要があります。そこで本会では、医療や健康維持等に関する情報提供を、会報誌『析腎友だより』、『あおぞら』に掲載する他、web講習会等により実施いたしました。

また、会員が日頃抱える病気や生活の悩みを個別に相談できる、各種無料相談会についても、電話及び電子メールで実施いたしました。

・会員の安心安全のために

新型コロナウイルスは、国内流行が始まってから2年が経過しましたが、変異種がまだまだ猛威を振るっており終息の目途が立っておりません。本会ではウイルス特性や3回目ワクチンの必要性等に関する情報提供を行い、透析患者の感染予防知識の向上を図り、加えて予防に関する意識を促すことで、個人の防疫だけでなく、透析施設の防疫（院内感染予防）にも協力してまいりました。

・透析から離脱するために

腎臓移植は透析から離脱する唯一の医療です。平成22年7月の「改正臓器移植法」の施行以降、栃木県内ではこれまでに十数名の透析患者が、腎移植により透析から離脱することができました。本会では献腎移植促進のため、栃木県臓器移植協会が主催する臓器移植キャンペーン等に協力し、「ドナー登録」の啓発活動等を積極的に行っております。

・将来にわたって会を継続するために

未加入施設に対し「入会のお知らせ」配布を行う等、本会が将来にわたり維持・運営できるよう、積極的な活動を行いました。特に、次世代の担い手を育成するため、ユース部交流会やSNSによる情報発信に積極的に取り組みました。

以上、本会の主な活動実績を報告いたしました。週3回の透析に耐えながら社会復帰している患者に、一人でも多くの方の御理解が得られることを願っております。また、本会への入会は透析患者だけでなく、健常者の方にも賛助会員、ボランティア会員等で入会できますので、御支援いただける方の御入会を併せてお願い申し上げます。

(以上)

意思表示することの大切さ

臓器移植推進サポーター (BREXY)
KAORI

みなさんこんにちは！この度、臓器移植推進サポーターに任命していただきました、プロバスケットボールチーム・宇都宮ブレックス専属チアリーダー BREXYのKAORIです。

今シーズンの推進サポーターとして、一人でも多くの方に臓器移植のことを知っていただき、臓器提供の意思表示が普及するよう、精一杯PR活動に励んでいきますので、よろしく願いいたします。

昨年に続き、新型コロナウイルスの影響で街頭キャンペーンなどのPR活動が思うようにできていないのが現状ですが、臓器提供意思表示リーフレットをブレックスの試合会場に設置したり、ブレックスとコラボレーションした県オリジナルの意思表示カードの作成や今回、一緒にサポーターとして任命された#7テーブス海選手を起用したポスターなどを県内の病院などに掲示し今できる普及活動をさせていただいております。

私自身推進サポーターとして任命していただいてから、「臓器移植」、「臓器提供」についてテレビのニュースやインターネットの記事で注目することが増えました。

その中で、とある記事に目が止まりました。

2017年8月の内閣府世論調査による記事で「死後に臓器を提供する」という家族の意思を尊重すると回答した人は87%、一方で家族が脳死下臓器提供の意思表示をしていなかったときに提供を承諾

できると考えている人は49%に達するそうです。

本人の意思表示が書面であることで、家族の判断を後押しすることがうかがえますが、家族ときちんと話しあったことのある人は36%に留まっているそうです。

臓器移植や臓器提供という、なんとなく自分とは遠い存在のように感じてしまっていますが、いつどこで何があるか分かりません。考えたくもないような突然の出来事が起こる可能性は誰にでもあります。自分の意思を表示することで沢山の命につなげることができます。

意思表示ができる今、家族や身近な人たちと話し合ってみてください。

そして意思表示カードや、健康保険証、運転免許証、マイナンバーカード、インターネットによる意思登録といった身近なもので様々な方法で表示することができるので、自分にあった方法で表示しましょう！

これからもチャリーダの活動を通して、笑顔や元気を届けると共に推進サポーターとしての活動にも励んでいきたいと思えます。

栃木県慢性腎不全治療の概要

協会では、前身の腎不全対策協会発足時から20有余年にわたり、毎年、栃木県内の人工透析医療実態調査を行い、透析患者数の推移などについてデータ化し、腎不全治療に役立てていただくため、公表しております。これも透析医療機関の皆様方のお陰でありまして、改めてお礼を申し上げます。

令和2年末における人工透析医療実態調査の主な結果は次のとおりです。

透析患者は、患者数推移のグラフ（P3）でも分かるとおり、急激な増加の時代は終わり、なだらかな増加傾向が続いています。全透析患者数の原疾患別の割合では、慢性糸球体腎炎が27.8%（前年比1.8ポイント減少）、糖尿病性腎症が45.6%（前年比0.6ポイント増加）で、糖尿病の割合は年々増加の一途です。次いで、腎硬化症、のう胞腎の順となっております。

1. 人工透析施設の動向

	令和2年	令和元年	平成30年
透析施設数	80	78	78
同時透析能力	2,860	2,804	2,696
患者収容能力（人）	8,053	8,123	7,688
CAPD実施施設数	10	9	8
夜間透析実施施設数	37	38	36

2. 透析患者の動向

	令和2年	令和元年	平成30年
(1)透析患者総数（人）	6,558	6,431	6,282
入院患者数	433	527	469
透析方法			
①血液透析	6,418	6,311	6,204
（うちHDF）	969	820	709
（うち家庭透析）	5	7	7
②腹膜透析	140	120	78
（血液透析併用含む）			
(2)透析導入・死亡（人）			
年間透析導入患者数	820	864	614
年間死亡患者数	804	705	593

3. 腎臓移植の現況

	令和2年	令和元年	平成30年
(1)年間腎臓移植患者数	19	34	30
献腎移植	1	5	2
生体腎移植	18	29	28
(2)腎臓移植者総数(累計)	650	631	597
献腎移植	94	93	88
(3)臓器提供者数(年間)	1	2	2
献腎(心停止後腎臓提供)	0	0	1
脳死下臓器提供	1	2	1
臓器提供者数(累計)	31	30	28

【参考】 血液透析患者の週当たりの透析回数と時間(CAPD、HDの併と在宅透析は除く)

週3回	5時間以上	424人
週3回	4時間以上5時間未満	4,391人
週3回	4時間未満	1,397人
週2回	5時間以上	6人
週2回	4時間以上5時間未満	52人
週2回	4時間未満	85人
週1回	4時間以上5時間未満	11人
週1回	4時間未満	11人

腎臓を大切に：CKD（慢性腎臓病）は
2人に1人がかかる国民病

CKD（Chronic Kidney Disease；慢性腎臓病）の生涯罹患リスクは50%で、がんと同様に高率です。しかしこの病気の名前を知っている国民は10%に届きません。私たちRAV-CKD（CKD啓発動画研究会）はCKD認知率向上を目指して、2010年秋より啓発動画の製作～ YouTubeでの公開を継続しています。活動開始から12年目に入り、2022年1月時点で総再生回数は30万回を越えています。さらに2021年7月からはInstagramアカウントも開設（図1）して、若い世代への情報発信強化を目指しています。

2020年に入ってからCOVID-19パンデミックはまだ収束が見通せず、私たちのCKD啓発支援のための音楽コンサートやエクササイズイベントも、大人数が集まるような開催形式が困難となったため、2021年夏にYouTubeライブを用いたWebコンサート（https://youtu.be/T_Dcg9l-RqE）を開催し、今年も2月27日（図2）、6月19日の日曜日にも同様のコンサートを予定しております。またエクササイズイベントも、県内各地で少人数のグループを作り、それぞれのグループをLINEミーティングというビデオ通話アプリを用いてリアルタイムで繋げる新しい形のハイブリッド開催を2021年4月、10月に行い（https://www.youtube.com/watch?v=CksqxMUkYp4）、

図1 2021年7月開設のCKD啓発動画研究会(RAV-CKD)のInstagramアカウント (Insutagramで検索：ravckd)



図2 2022年2月27日（日曜日）14～16時開催のWebコンサート

CKD啓発支援Webコンサート pm 2～4, Feb. 27 Sun. 2022

♪ 予定プログラム：4部構成 ♪
早春賦・花・この道・浜辺の歌・のばら・
おおシャンゼリゼ・シューベルトの子守唄・
虹の彼方へ・私を泣かせて下さい・
人知れぬ涙・星はひかりぬ・
他

Tenor: 持齋 寛匡
東京藝術大学音楽学部音楽科卒業。国学院大学音楽学部専攻修士課程修了。東京二期会オペラ研修所第11次マスタークラス修了。要旨の研修所成績優秀者による演奏会二期会新進演奏家の少人数で出演。東京藝術大学オペラ定期公演(ロシア・ファンタジー)コラード、《ワグネルの喜劇》ドン・パジリア及び《シンクウツ子役》に出演。東京二期会松林、神奈川県第一座主演として、《カルメン》(真昼の歌)、《真昼の歌》(真昼の歌)のアンダースタディを務め、同ハイクラス公演に同役で出演。《愛の妙案》メモリー、《ラボエーム》ロドルフォ、《結婚夫人》コロ、《カルメン》サンタール、《こもり》アルフレード、など多岐多言語のオペラに出演。ベートーヴェン(第九)、モーツァルト(ハジメミサ)のテノールリストを務める。足利における演奏会でNHK交響楽団木管五重奏と共演。現在演奏活動の傍ら埼玉県加須市の中学校で音楽教師を務める。二期会会員。

Piano: 村山 絢子
東京藝術大学音楽学部附属音楽専攻学校を経て、同大学器楽科ピアノ専攻。大学別科フォルテピアノ専攻卒業。小野里栄子、深澤亮子、野原みどり、平井文二郎、青柳晋、Gタッキーノ、フォルテピアノを小重貴久子、Qシヨルンズハイムの主任に師事。

CKD(慢性腎臓病)は8人に1人の有病率、2人に1人の生涯罹患リスクなのに病名を知っているのは10人に1人程度です。今回のWebコンサートは、誰もが観るけれど誰も知らないCKDへの関心を高める啓発活動に賛同いただいたお二人の演奏をYouTubeライブで限定配信いたします。ぜひご視聴いただきCKD啓発へのご支援を何卒よろしくお願いいたします。

★無料コンサートですが、ご視聴にはYouTubeライブの限定公開URLアドレスが必要ですので、
公演前日2/26土曜pm 6時までにRAV-CKD事務局宛メールにてご連絡ください：ravckd.info@gmail.com
CKD啓発動画研究会 (RAV-CKD):http://www.ckd-ckd.jp/

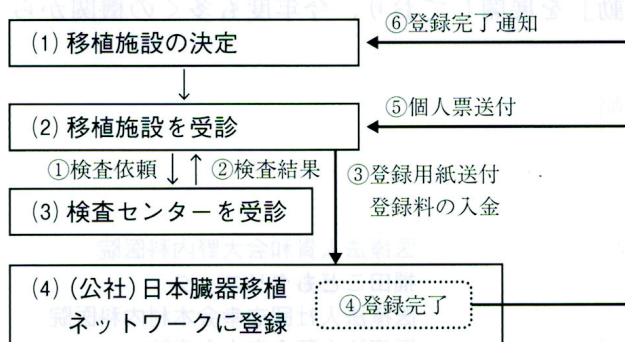
2022年も予定しています。これらの新しい工夫を取り入れた活動を通して、今後啓発効果が拡大することを期待しています。

皆様もぜひRAV-CKDホームページ (<http://www.ckd-ckd.jp/>) やインスタグラムのアカウント (Instagramで“ravckd”を検索) をご覧いただき、CKDの認知度向上にご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

2022年1月 RAV-CKD代表幹事 安藤 康宏 (国際医療福祉大学予防医学センター・腎臓内科)

献腎移植希望の登録について

献腎移植を希望する場合は、(公社)日本臓器移植ネットワークに登録しなければなりません。栃木県での手続きは次のとおりとなります。



(1)移植施設の決定 (栃木県の場合)

腎臓 自治医科大学附属病院／獨協医科大学病院
 膵臓 (膵腎同時移植可能) 獨協医科大学病院
 ※担当医師とよく相談し、紹介状を書いています。なお、上記病院の電話番号は次のとおりです。自治医科大学附属病院(Tel0285-44-2111)、獨協医科大学病院(Tel0282-86-1111)

(2)移植施設を受診

健康保険証、身体障害者手帳、紹介状を持参し受診します。

(3)検査センターを受診 (栃木県の場合)

◆自治医科大学附属病院 輸血・細胞移植部

◆獨協医科大学病院 臨床検査部

組織適合検査(採血のみ)を行います。検査費用は施設によって異なりますが、4万円前後です。

なお、検査費用の一部助成制度がありますので、(公財)栃木県臓器移植推進協会(Tel028-625-7350)に確認してください。

(4) (公社)日本臓器移植ネットワークに登録

登録料は3万円です。次の年からは更新料として毎年5千円かかります。

なお、登録料及び更新料は医療費控除の対象となります。また、生活保護世帯の方や生活保護世帯以外の生活困窮者の方は費用が減免になります。

詳しくは、(公社)日本臓器移植ネットワークのホームページ(www.jotnw.or.jp)で御確認ください。

(5)脳死臓器提供により次の臓器も栃木県の医療機関で移植を受けることができますが、いずれも(公社)日本臓器移植ネットワークへの移植登録が必要となります。

肺	獨協医科大学病院
肝臓 (18歳未満)	自治医科大学附属病院
小腸	自治医科大学附属病院

(6)臓器提供、臓器移植の現状

2021年(1~12月)中に、日本で行われた臓器提供は50件あり、うち脳死での提供が43件、心停止後の提供が7件ありました。栃木県内では、この期間の臓器提供事例はありませんでした。また、これらの提供により、209名の方が移植を受けることができました。

移植者の現状は次のとおりです。

	平均待機期間 (移植希望登録日から 移植日までの期間)	移植後 5年後の 生存率
心臓・心肺同時移植	約3年4ヶ月	92.8%
肺・心肺同時移植	約2年5ヶ月	73.5%
肝臓・肝腎同時移植	約1年3ヶ月	83.7%
膵臓・膵腎同時移植	約3年4ヶ月	93.0%
小腸移植	約11ヶ月	74.6%
腎臓移植	約14年9ヶ月	91.3%

日本臓器移植ネットワークNews Letter vol.25 2021」より

透析医療機関のみなさまへ

透析患者さんの不測の事態に備え、「緊急透析患者カード」を配布しています。

御希望の透析医療機関は、「公益財団法人栃木県臓器移植推進協会」までお申し出ください。

オモテ

緊急	透析患者カード			
<p>私は腎不全のため透析治療を受けています。もし、気を失ったり、倒れていた時は、最寄の医療機関に運ぶとともに、すぐに下記の透析医療機関に通報して下さい。</p>				
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>病・医院名</td> </tr> <tr> <td>電話番号</td> </tr> <tr> <td>住 所</td> </tr> </table>		病・医院名	電話番号	住 所
病・医院名				
電話番号				
住 所				

ウラ

緊急	氏名				血液型 ()
生年月日	M T S H	年	月	日生	
住 所					
自 宅	電話				
非常時連絡	電話				
公益財団法人 栃木県臓器移植推進協会 電話 028-625-7350					

事務局通信

平成26年度から「臓器移植普及推進のための募金運動」を展開しており、今年度も多くの機関から御支援をいただきました。

本誌上をお借りして、厚くお礼申し上げます。(敬称略)

●医療機関（募金収納順）

- | | | |
|--------------------|---------------------|----------------------|
| 医療法人増山内科胃腸科クリニック | 旭眼科内科クリニック | 医療法人貴和会大野内科医院 |
| 医療法人社団アイ・こころのクリニック | 中川内科クリニック | 福田こどもクリニック |
| 医療法人宇都宮健康クリニック | 手塚耳鼻咽喉科医院 | 医療法人社団志幸会木村内科医院 |
| 医療法人慈恵会白澤病院 | 医療法人加藤クリニック | 医療法人薫会烏山台病院 |
| 布川小児科医院 | 医療法人清仁会吉沢眼科医院 | 山崎小児科医院 |
| 医療法人社団一木会橋本医院 | 平野外科医院 | 佐野 利之 |
| 医療法人社団大栗内科 | 医療法人美光会吉原医院 | 社団医療法人明倫会今市病院 |
| 養護老人ホーム若草園 | 小菅胃腸科クリニック | 河島医院 |
| 医療法人さいとう小児科 | 医療法人耳鼻咽喉科関根クリニック | (特非)ルネサンス巡回健診クリニック |
| 医療法人直心会小林内科クリニック | 医療法人秀和会山川耳鼻咽喉科医院 | とちぎメディカルセンターしもつが |
| 医療法人おかべこどもクリニック | きぬの里クリニック | 小平メディカルクリニック |
| 医療法人社団松島眼科医院 | 医療法人桃李会御殿山クリニック | 医療法人星霜会 |
| 医療法人櫻会中谷医院 | 医療法人光風会光南病院 | 斉藤 憲治 |
| 医療法人柏木医院 | 医療法人青木眼科医院 | 小林医院 |
| あきもと小児科 | 増山胃腸科クリニック | 賀川診療所 |
| おもちゃのまち内科クリニック | 医療法人社団廣和会両毛クリニック | 医療法人慈仁会飯塚医院 |
| はらクリニック | 那須赤十字病院 | 医療法人弘真会二宮中央腎・検診クリニック |
| 医療法人弘真会二宮中央クリニック | せき内科胃腸科クリニック | 医療法人小山すぎの木クリニック |
| 稲野医院 | 医療法人環の会真岡メディカルクリニック | おおくぼみみはなのどクリニック |
| 医療法人千秋会大場医院 | 医療法人社団徳仁会中野病院 | 医療法人健和会緑の杜クリニック |
| 医療法人裕智会大橋内科クリニック | 上野医院 | 医療法人恵会皆藤病院 |
| 栃木リウマチ科クリニック | 医療法人宇都宮新直井病院 | 一般社団法人足利市医師会 |
| 手塚内科 | 医療法人社団慶生会目黒医院 | 医療法人佐藤皮フ科クリニック |
| 医療法人社団洋精会沼尾病院 | 山田 聰 | 医療法人社団二樹会村山医院 |
| 医療法人聖真友愛会友井内科クリニック | 医療法人開生会奥田クリニック | 高山クリニック |
| 医療法人博愛会杉村病院 | 竹村内科腎クリニック | 医療法人渡部クリニック |
| 宇都宮整形外科内科クリニック | ひらいで公園腎クリニック | 済生会宇都宮病院 |

特別養護老人ホーム元気の里	かるべ皮膚科小児科医院	一番町クリニック
うるしばらクリニック	医療法人いぶき鹿野クリニック	医療法人水韻会柏倉医院
足利赤十字病院	さくら産院	斎藤 公司
とちぎメディカルセンターとちのき	宇都宮記念病院	公益財団法人栃木県保健衛生事業団
佐野厚生総合病院	医療法人緑水会	医療法人修英会中川医院
医療法人松本内科医院	自治医科大学附属病院	医療法人社団深澤クリニック
医療法人社団福田会福田記念病院	医療法人社団一心会高橋クリニック	宇都宮協立診療所
宇都宮腎・内科・皮膚科クリニック	医療法人都賀中央医院	しもつけ腎・内科クリニック
小山整形外科内科クリニック	小嶋内科	医療法人仁山会中山内科医院
樹レディースクリニック	医療法人泉心会坪水医院	なないろ小山メンタルクリニック
医療法人恵愛会青木病院	公益社団法人栃木県柔道整復師会	橋本腎内科クリニック
ちかざわレディースクリニック	えぐち内科クリニック	岡田医院
医療法人飯野医院	大和田内科・循環器科・胃腸科	新島内科クリニック
筑波医院	青い鳥こどもクリニック	

●県庁各課室及び出先機関（募金収納順）

下水道管理事務所(令和2年度分)	管財課親睦会(令和2年度分)	建築課親睦会	企業局板室管理支所親睦会
烏山健康福祉センター	経営管理部財政課	企業局水道課親睦会	那須広域ダム管理支所
環境森林部環境保全課	健康増進課むつみ会	道路整備課親睦会	真岡県税事務所
那須教育事務所	環境森林部林業木材産業課	県土整備部道路保全課	安足教育事務所
塩谷南那須教育事務所	農政部農政課	教育委員会事務局施設課	自動車税事務所八千代会
繊維技術支援センター	栃木県農業大学校	環境森林部森林整備課	県南高等看護専門学院
労働委員会事務局むつみ会	企業局地域整備課	県民生活部危機管理課	国体・障害者スポーツ大会局総務企画課
経営管理部人事課	県土整備部砂防水資源課	栃木県税事務所とちの和会	会計局会計管理課
保健福祉部指導監査課	国体・障害者スポーツ大会局競技式典課	保健福祉部保健福祉課	県土整備部技術管理課親睦会
県土整備部用地課	農政部生産振興課	県土整備部都市計画課	人事委員会事務局
安足農業振興事務所職員有志一同	栃木健康福祉センター	農政部経営技術課	産業労働観光部工業振興課
栃木県水産試験場	県東環境森林事務所職員有志	小山労政事務所	産業労働観光部観光交流課
保健福祉部生活衛生課	産業労働観光部経営支援課	矢板県税事務所	環境森林部自然環境課
大田原県税事務所	鹿沼土木事務所	矢板森林管理事務所	保健福祉部こども政策課
産業技術センター親和会	塩谷南那須農業振興事務所	宇都宮県税事務所	河内教育事務所
障害福祉課障親会	経営管理部文書学事課	下水道管理事務所	精神保健福祉センター
保健福祉部感染症対策課	栃木県議会事務局	くらし安全安心課親睦会	総務事務センター親睦会
保健福祉部国保医療課親睦会	教育委員会事務局生涯学習課	県土整備部河川課	県南健康福祉センター総務企画課
監査委員事務局親友会	教育委員会事務局文化財課親睦会	農政部畜産振興課	県土整備部監理課親睦会
国体・障害者スポーツ大会局施設調整課	保健福祉部医療政策課	農業環境指導センター	教育委員会事務局高校教育課
農政部経済流通課	労働政策課仲良会	栃木県保健環境センター	上都賀農業振興事務所
県東健康福祉センター	市町村課親交会	県西健康福祉センター	県南児童相談所
栃木県公園事務所	保健福祉部薬務課	デジタル戦略課親睦会	県土整備部住宅課
河内農業振興事務所	とちぎ男女共同参画センター	日光土木事務所	足利労政事務所
上都賀教育事務所	県北環境森林事務所	矢板土木事務所親睦会	栃木土木事務所親睦会
中央児童相談所	全国障害者スポーツ大会課親睦会	農政部農地整備課	県民文化課有志一同
芳賀農業振興事務所	鬼怒水道事務所親睦会	下都賀教育事務所	県北健康福祉センター
鹿沼県税事務所親和会	環境森林部環境森林政策課	広報課はるかぜ会	烏山土木事務所親睦会
教育委員会事務局義務教育課親睦会	栃木県立衛生福祉大学校	農業試験場いちご研究所	大田原土木事務所
栃木県立栃木特別支援学校	環境森林部資源循環推進課	栃木県畜産酪農研究センター	企業局電気課親睦会
県西環境森林事務所	安足土木事務所親睦会	県民生活部統計課親睦会	栃木県央産業技術専門校
栃木県林業センター職員一同	栃木県立図書館	南那須特別支援学校職員有志一同	人権・青少年男女共同参画課親睦会
栃木県立盲学校	安足県税事務所	栃木県立益子特別支援学校	高齢対策課親睦会
栃木県立岡本台病院	栃木県食肉衛生検査所	栃木県立日光明峰高等学校	企業局経営企画課
職員厚生課親睦会	栃木県東京事務所	県民生活部消防防災課	栃木県総合教育センター
栃木県動物愛護指導センター	今市発電管理事務所	栃木県立博物館	栃木県計量検定所
県南家畜保健衛生所	今市健康福祉センター親睦会	栃木県障害者総合相談所	

●募金機関：267機関

●募金総額：1,616,232円（令和4年2月9日現在）

支援型飲料自動販売機の設置について（お願い）

当協会は、財産運用収入が年々減少し、収入確保が課題の一つとなっております。

そのため、収入の増加とPR強化を目的に、平成29年度からFVジャパン(株)、平成30年度からコカコーラボトラーズジャパン(株)の御協力で、支援型飲料自動販売機の設置事業を開始いたしました。この事業は、自販機の設置者様が指定する公益団体に売上の一部（寄付額は任意）を寄付するもので、飲料購入者も間接的に公益事業を支援するものです。自販機にはチラシなどを掲示でき、オリジナルデザインの自販機を設置することもできるため、PR効果も期待できます。

平成30年度に初めて当協会の自販機を設置して以来、県内では現在7台が稼働しており、これらの自動販売機からは毎月寄付金をいただいているほか、臓器移植推進PRにも貢献しています。



この支援型飲料自動販売機の設置事業に御理解をいただき、広く、医療機関開設者の皆様に自販機の設置に御協力くださるようよろしくお願い申し上げます。詳しくは当協会事務局にお問い合わせください。（TEL 028-625-7350）

○既に設置している医療機関等は次のとおりです。御協力ありがとうございます。

獨協医科大学病院

医療法人慈啓会白澤病院

自治医科大学附属病院

済生会宇都宮病院

栃木県職員生活協同組合2台（県庁本館5階健康増進課前、県立衛生福祉大学校）

医療法人青木眼科医院（栃木市）



編集後記

○協会だより第32号(令和3年度版)を発刊し、皆様にお届けすることになりました。これも偏に、お忙しい中御尽力をいただきました関係者の皆様のお陰であり、厚く御礼を申し上げます。

○改正臓器移植法が施行されてからの11年間で、県内の病院において15件の脳死下臓器提供が行われましたが、今なお、県内においては217名を超える方々が移植を希望されている現状にあり、一層の啓発活動が必要です。

○今期も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臓器移植普及推進街頭キャンペーンの小規模開催や研修会の中止など普及啓発活動がかなり制限されてしまいました。

一日も早い終息を願うとともに、日夜感染症に対応している医療関係者の皆様にご場をお借りして心から感謝申し上げます。

○これからも臓器移植普及推進のため、微力ながら精一杯、努めさせていただきますので、皆様のより一層の御理解、御支援と御協力をお願いいたします。（S 生）